

第6章

人結び・SDGsモデル プロジェクト

人結び・SDGsモデルプロジェクト

高校生などの若い世代、事業者、自治会・校区コミュニティ等地縁団体、テーマ団体、中間支援組織、行政など、異なる立場が連携することにより、分野横断的課題の解決「SDGsへの貢献」を目指す象徴的なプロジェクトです。既存の主体同士を課題や目的に応じて結び付け、多方面での協働グループの形成を促し、活動内容は積極的に情報発信を行うことで、市民の活動の「見える化」を行い、「市民→市民」への啓発を活発化し、環境問題の「自分ごと化」を促します。

■本プロジェクトの位置付け

長岡京市第三期環境基本計画では、縦の分野分けに基づいた施策展開だけでなく、SDGsの視点を取り入れた四つの分野横断的視点及び施策展開をしていくことを第5章で論じてきました。本プロジェクトは、それら四つの横断的視点に基づく施策展開の中でも、協働が事業の下支えをしている特に象徴的な事業を取り上げ、推進していくものです。

■ねらい

- ①環境問題に主体的に取り組む担い手の支援・育成を行う。
- ②市民が参画する活動を「見える化」し、「市民→市民」の啓発を活発化し、環境問題の「自分ごと化」を促す。

■プロジェクト例

モデルプロジェクトは、アイデア段階のものを含め、あくまでモデルとして抜粋したものです。市民協働による事業自体は、ほかにも既に多数存在し、今後も拡充していくことを目指します。

次ページから、モデルとなるプロジェクトを紹介します。

(1) ゼロカーボン社会を目指し、環境に優しく地域経済が循環するまち

◎排出量取引を活用した、事業者と市民・団体等をつなぐ仕組みづくり

排出量取引とは、再エネ設備の導入などによる温室効果ガス排出量の削減効果を価値化し、売買することを言い、キャップ&トレード方式とクレジット方式があります。キャップ&トレード方式は、まだ国内での制度化はされていませんが、クレジット方式については、現在国が主導で進める「Jクレジット」の制度と、京都府が主導で進める「京-VER」の制度があります。こうした制度を活用し、市民や団体等が太陽光パネルの設置や地域活動などにより生み出した温室効果ガス排出削減効果を「クレジット」化し、地元企業がCSR活動の一環として購入する仕組みができれば、気候変動対策と地域経済循環を同時に確立することができます。長岡京市は、こうした仕組みの構築を目指します。

⇒48ページ「①環境に配慮した事業活動の推進と環境基金の有効活用」関連事業

※キャップ&トレード方式…事業者等に温室効果ガスの排出枠（削減目標）を割り当て、排出枠との差分を売買する制度

※クレジット方式…上述の排出枠は定めませんが、高効率機器導入等による温室効果ガス排出削減効果を価値化し売買する制度

◎事業者と連携したペットボトルの水平リサイクルの推進

ペットボトルからペットボトルというように、同じ製品に生まれ変わらせるリサイクルのことを「水平リサイクル」と言います。ペットボトルのリサイクル率自体は、約9割という高い水準ですが、リサイクルの行き先としては、繊維や食品トレイに生まれ変わるものもあり、水平リサイクルは約1割にとどまっています。水平リサイクルでない場合は、いずれはリサイクル原料としての品質が低下していき、最終的に焼却熱として利用せざるを得なくなります。そうすると、そこで循環の輪は途絶えます。また、プラスチックが石油由来であることを考えると、焼却によって排出されるCO₂が地球上の累積CO₂量を増やしてしまう結果となります。

そこで、近年、水平リサイクルを推進する動きが加速しています。同じ製品に生まれ変わらせることで、製造過程のCO₂も大幅に減らすことができます。また、リサイクル原料としての品質の低下を防ぐことができるので、理屈上、何度でもペットボトルに生まれ変わらせることができます。これにより、気候変動対策や廃棄物減量に貢献することができるというものです。長岡京市は、使い捨て大量消費のライフスタイルの見直しとともに、事業者との連携のもと、ペットボトルの水平リサイクルを推進していきます。



令和3年10月21日、長岡京市をはじめ、乙訓2市1町と乙訓環境衛生組合及びサントリーグループとの間で締結したペットボトルのボトル to ボトルに関する協定

⇒48ページ「①環境に配慮した事業活動の推進と環境基金の有効活用」関連事業

(2) 環境と調和のとれた新たな地域の魅力を創造するまち

◎西山森林整備推進協議会活動

令和2年9月に行った市民アンケートでは、身近な環境の満足度について、「西山など自然環境の身近さ」の満足度が最も高いという結果でした。平成23年度に行った同様のアンケートでも同じ結果であったことから、西山が市民にとって地域の魅力として認識されていることが分かります。その西山の豊かな森林環境の保全や育成を推進するために、森林所有者、地域住民、企業、NPO、大学、行政などが連携して、平成17年6月に西山森林整備推進協議会が設立されました。協議会では「西山森林整備構想」に基づき、『つなげたい みどりの西山 未来の子らへ』という想いのもと、森林整備だけでなく、木材利用や環境教育、生物調査など、積極的な活動を展開しています。多様な主体が連携した西山の森林整備等の活動を通して、「災害防止」「水源涵養」「木材等生産」「文化」「快適環境形成」「生物多様性保全」「保健・レクリエーション」「地球環境保全」といった分野横断的な課題解決に貢献しています。こうした活動を持続的なものとしていくためには、担い手の育成・継承にも目を向けていかなければなりません。

平成28年度には、ふるさと納税を活用して森林整備を行う事業を開始しました。正に人々の想いが地域の魅力を守り育てていると言えます。長岡京市は、こうした西山森林整備推進協議会の活動を、協議会を構成するメンバーとして推進していきます。



西山森林ボランティア養成講座の様子

⇒51ページ「①みどりと歴史のまちづくり」関連事業

(3) エコライフと暮らしやすさを両立するまち

◎マイプラレディ運動の拡大

長岡京市役所では、一事業所としてプラスチックごみの減量を進めるため、令和元年12月から「マイ・プラ・レディ運動」と称して、職員のマイバッグ・マイボトルを推奨しています。my (私の)・pla (プラスチック類は) ready (自分で準備) ということで、昼食の買い出しでのマイバッグの奨励や、飲み物のマイボトルでの持参を奨励するものです。取り組みの進捗としては、令和2年度末でマイバッグ使用率約72.6%、マイボトル使用率81.3%という結果であり、一定の定着が図られたと言えます。今後は、この取り組みを継続するとともに、対外的にも啓発することで、プラスチックごみの減量を進めていきたいと考えています。まずは、市役所内で開催される会議において、できるだけマイボトルでの参加を呼びかけるなど、ご出席いただく方のご理解を得る努力を行います。そして、段階的にその取り組みの輪を対外的に広めていきます。

⇒54ページ「②ごみの出ない暮らし方の推進」関連事業

(4) 持続可能な未来を築く、人が育ち・学び・人がつながる環境の都

◎地域内での異なる団体間の交流の機会の創出

令和2年9月に市内で環境活動を行っている団体を対象に行ったアンケートでは、団体が抱える悩みとして、高齢化により団体の活動を伝えていくことが困難という趣旨の意見が多数寄せられました。一方、これからの社会を担う若い世代の環境教育の重要性が指摘されています。そこで、この二つを結び付ける取り組みができれば、環境団体の人にとっては、これまでの活動の中から得てきた数々の知見を伝えることができます。若い世代にとっては、地域の人たちの声を聞くことで、環境問題をより身近に感じる有益な経験となります。長岡京市は、こうした若い世代と環境団体を結び付ける活動を推進していきます。

また、地域の中で、環境に関し、主体的な勉強会のようなものが開かれるようになれば、それは非常に理想的な姿と言えます。長岡京市には、小学校区や自治会を単位とする地縁団体が数多くあり、とても活発に活動を展開されています。さらに、環境への貢献を理念として活動するテーマ型の団体・個人も数多く存在し、こちらもとても活発に活動を展開されています。各団体のペースや許容できる負担に配慮しながら、これらの団体を結び付けることができれば、地域内での学び合いの機会が創出され、それは市民から市民への啓発となり、市民の行動変容につながっていくと考えられます。長岡京市は、そうした地域内での異なる団体間の交流の機会の創出のお手伝いをします。



環境フェアにおいて、環境をテーマに異なる世代間での意見交換を実現。その様子をラジオで発信した

⇒58ページ「③地域の中で環境を考える学び合いの機運の醸成」関連事業

[illegible]